

実施報告書

糸満市・座間味村・読谷村連携事業

平和の光の柱による“平和のトライアングル”

平成 25 年 6 月 23 日
公益財団法人沖縄県平和祈念財団

1 事業実施の背景

沖縄侵攻を窺う米軍は、昭和 20 年 3 月 26 日に初めて沖縄県座間味村に、続いて沖縄本島中部、現在の読谷村・嘉手納町・北谷町に上陸した。

これ以降、多数の民間人を巻き込んだ約 3 か月に及ぶ悲惨で苛烈な地上戦が沖縄において繰り広げられた。

そして、6 月 23 日、沖縄守備に当たった第 32 軍牛島司令官の糸満市摩文仁における自決により、組織的戦闘が終結したとされる。

この悲惨で苛烈な沖縄戦も戦後 68 年を経過し、戦争体験者が減少するにつれ国民の記憶から薄れつつある。

2 本事業の目的

米軍の沖縄県内への初上陸地である座間味村、沖縄本島への初上陸地のひとつである読谷村、そして沖縄戦終焉の地である糸満市摩文仁を“平和のトライアングル”として、戦時中は軍用だったサーチライトを慰霊・平和の象徴「平和の光の柱」として全戦没者之霊の標柱に見立てて、それぞれの地から天空に照射するものである。

これにより、糸満市や座間味村・読谷村の平和の光の柱を遠方から見るができるようにし、悲惨な戦争の犠牲者に対して県民が思いおもいに平和を祈り語っていただき、平和を希求する県民の一体感・達成感を醸成するとともに平和教育につなげて若者へ慰霊・平和を継承させ、戦争体験の風化を防ぐことを目的とする。

3 内容

(1) 期日

- ① 座間味村 3月26日（沖縄県へ米軍が初めて上陸した日）座間味島
- ② 読谷村 4月1日（沖縄島へ米軍が初めて上陸した日）ヨミタンリゾート沖縄
- ③ 糸満市 6月23日（沖縄戦の組織的戦闘の終結したとされる日）
摩文仁 平和祈念公園

(2) セレモニー実施場所

- ① 座間味村 座間味島
- ② 読谷村 ヨミタンリゾート沖縄
- ③ 糸満市 摩文仁 平和祈念公園

(3) 内容

- ① 座間味村 慰霊・平和祈念のセレモニーが行われ、平和のメッセージを読谷村に伝達した。V字の2本の平和の光の柱を天空に照射した。
- ② 読谷村 慰霊・平和祈念のセレモニーが行われ、平和のメッセージを座間味村の分と合わせて糸満市に送った。3本の平和の光の柱を天空に照射した。
- ③ 糸満市 座間味読谷村長が参加して平和のメッセージを読み上げて糸満市長に伝達、糸満市長が平和メッセージを読み上げてリレーを締めくくった。
- ④ 公益財団法人沖縄県平和祈念財団 22・23日の2日間にわたり平和の光の柱5本を天空に照射するとともに、池で「とうろう流し」を行い、那覇青年会議所と共催で「平和の灯火」を実施した。青年会議所は台湾、香港の青年会議所と連携して両地においても同時刻に灯火を点けた。

(4) 実施状況

① 座間味村 座間味島

座間味港からV字型の2本の平和の光の柱を望む



3月の夜はまだ寒さの残る中、子どもたちが参加してくれた



② 読谷村 ヨミタンリゾート沖縄

式典で心を込めて書いた平和のメッセージを読む照屋さん



天空で合掌するピ
ラミッドのよう
にも見える3本の平
和の光の柱



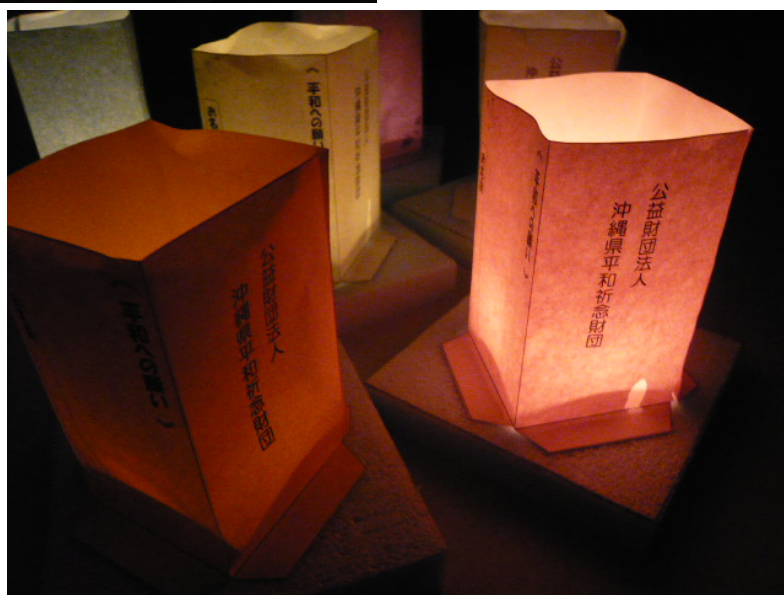
③ 糸満市 摩文仁 平和祈念公園

平和の丘に日本・米国・英国・台湾・韓
国の5地域・国を表す5本の平和の光の柱
が立つ



県民の平和を祈る
心を込めた7千個
の平和の灯火

さまざまな思いを
乗せて水面に揺れ
るとうろう流し



(5) 平和のメッセージ

別添

【新聞等報道の状況】

「平和の光」あすからリレー開催 沖縄戦上陸から終えんの地へ

琉球新報 3月25日(月)10時40分配信



「平和の光の柱トライアングル」事業をPRする(左から)読谷村の石嶺伝実村長、座間味村の宮里哲村長、糸満市の上原裕常市長、県平和祈念財団の新垣雄久会長=21日、県庁記者クラブ

糸満市、座間味村、読谷村の3市村が連携し、平和を願い語り継ぐための「平和の光の柱のトライアングル」を3月から6月にかけて実施する。沖縄戦の歴史を刻む地に、サーチライトの光で柱を作る。21日、3市村長と、事業を企画した県平和祈念財団の新垣雄久会長が県庁記者クラブで会見した。

座間味村が26日に平和の塔で、読谷村が4月1日にヨミタンリゾート沖縄で、糸満市が6月22、23日に平和祈念公園で、サーチライト2～5本を使って空を照射する。時間はいずれも午後8時～10時。会場で読み上げた平和メッセージを、次の開催自治体にリレー形式で託す。

名称のトライアングルは、沖縄戦で米軍が最初に上陸した座間味村、本島上陸地点の読谷村、戦いの終えんの地の糸満市、3市村を直線で結ぶと三角形(トライアングル)になることに由来。戦時中は軍事用として使われたサーチライトを、平和の象徴に転用する。

サーチライトは糸満市が一括交付金で購入したものを使う。青い光が約4千メートル上空まで照らすという。読谷村の石嶺伝実村長は「3市村のみならず、『平和の光の柱』を見た全ての県民が平和への願いを心に刻んでほしい」と期待を込めた。

沖縄タイムス



住民が見守る中、夜空に伸びる「平和の光の柱」=26日午後8時9分、座間味港フェリーターミナル(勝浦大輔撮影)

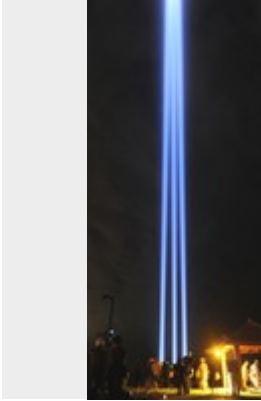
2013年3月27日 10時13分

【座間味】68年前に米軍が座間味に上陸し沖縄の地上戦が始まった26日、同村で「平和の光の柱トライアングル」が始まった。2基のサーチライトが、夜空へV字形に「平和の光の柱」を描き、平和への誓いを新たにした。

点灯に先立ち宮里哲村長が68年前の「集団自決(強制集団死)」を振り返り、「あの悲劇を決して繰り返さないため、この地から平和の決意を光に託し、世界へ届けと強く願います」と「座間味村平和メッセージ」を読み上げた。同イベントは、4月1日に読谷村、6月には糸満市で開催される。(田中英理子通信員)

平和願う光天に届け 68年前米軍上陸の読谷

沖縄タイムス 4月2日(火)12時22分配信



座間味村から引き継がれ、闇夜に伸びる「平和の光の柱」=1日午後8時28分、読谷村・ヨミタンリゾート沖縄(勝浦大輔撮影)

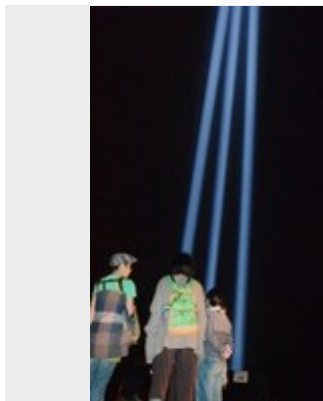
【読谷】68年前に米軍が沖縄本島中部に上陸した1日、読谷村のヨミタンリゾート沖縄で平和を願うイベント「平和の光の柱トライアングル」があり、光の柱3本が夜空に照らし出された。会場には村民ら約200人が訪れ、恒久平和を願い、後世に語り継ぐことを誓った。

3月26日にイベントが開かれた座間味村から引き継いで実施。参加者は黙とうをささげ、灯籠100個を設置した。午後8時にサーチライト3基から光の柱が天に伸びた。

点灯式で石嶺傳實村長は「平和な沖縄、平和な日本であり続けられるように努力することを誓う」と決意。祖母から戦争体験を聞いたという喜名小3年の照屋沙稀さん(8)は「世界中の平和が続くようにしたい」と平和のメッセージを読み上げた。6月22日には糸満市で開かれる。

夜空に誓う非戦 読谷で平和の光

琉球新報 4月2日(火)9時55分配信



平和の願いとともに空に立ち上がる光の柱=1日、読谷村のヨミタンリゾート沖縄

【読谷】平和への願いを込めてサーチライトを空へ照らし出す「平和の光の柱トライアングル」が、沖縄戦で米軍が沖縄本島に上陸した日の1日、上陸地点となった読谷村で開かれ、午後8時の時報とともに3本の光の柱が空に立ち上がった。訪れた家族連れなど200人が空を見上げ、平和への願いを光に託した。石嶺伝実読谷村長は「これからも平和を祈念し、努力しなければいけないと気持ちを新たにしたい」と話した。

平和メッセージを読んだ喜名小の照屋沙稀さん(8)は「きれい」と空を見上げた。沙稀さんの曾祖母・山内カメさん(95)は「とてもうれしい。戦争は本当に駄目。孫たちに戦争をさせないでとお願いしたい」と話した。友人5人で訪れた安田朱伽(しゅか)さん(16)は「3本の光が一つに交わっているところがいい」と話した。

この事業は座間味村、読谷村、糸満市3市村合同の取り組み。6月22日に糸満市でも実施する。

最終更新:4月2日(火)9時55分